砂地でも太く。ねぎの窒素施肥

露地ねぎの低肥沃度土壌に対応する窒素施肥技術

概　要 Abstract

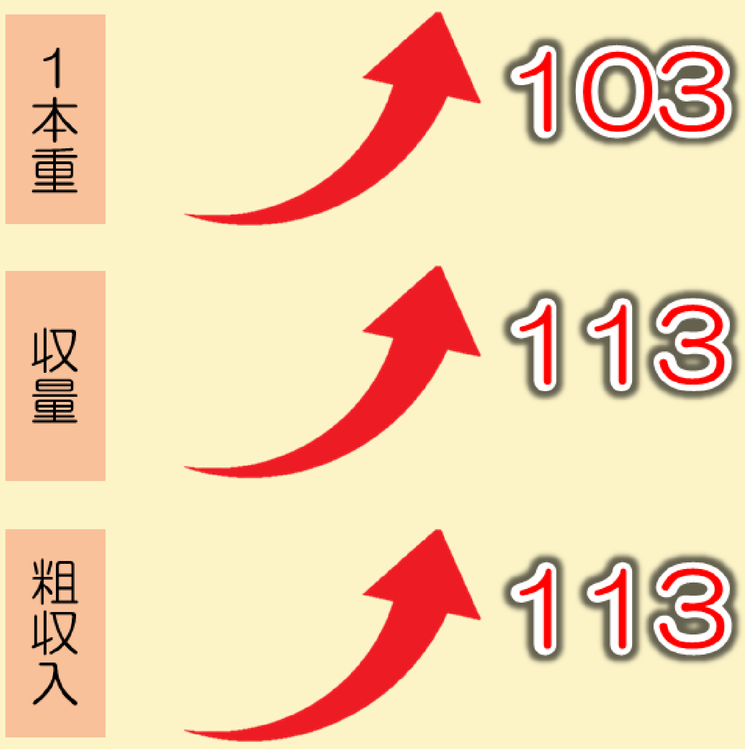
土壌の養分が少ない土壌で、露地ねぎは標準的な肥料の量で栽培しても細く軽く、取引単価が伸びない実態でした。

対策として、窒素施肥を養分の少ない土壌に合わせて改善しました。緩効性肥料による定植前の苗箱施肥や窒素3kgN/10a増肥が有効でした。

成　果 Results

苗箱施肥

苗箱施肥の効果
（標肥（-2）区との比）



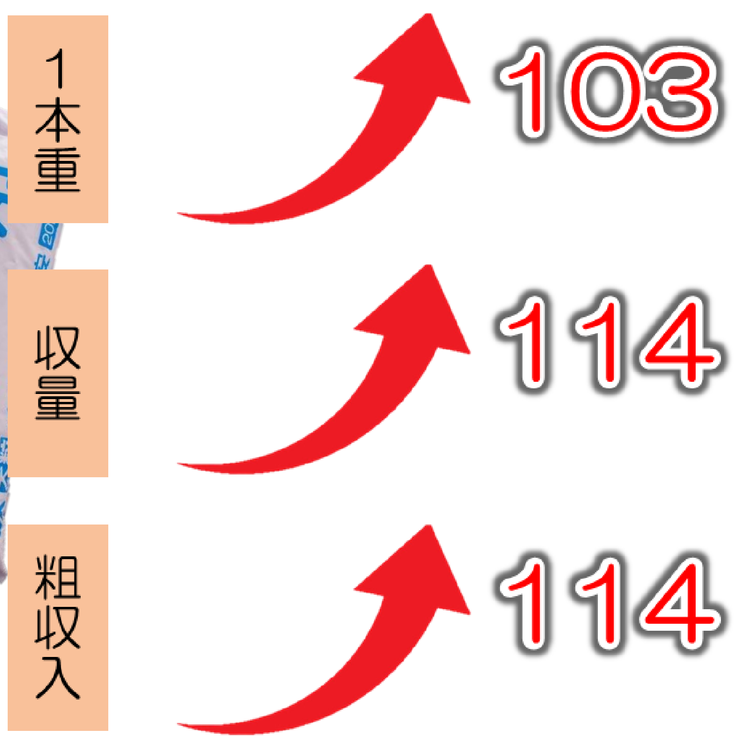
苗箱施肥は定植前日までに88g/冊（CP303の場合）を施肥します。

本圃の施肥は窒素成分が

基肥 6 ＋ 苗箱 2 ＋ 分施① 5 ＋ 分施② 5 （kgN/10a）となります。

窒素増肥

+3増肥の効果
（標肥（-2）区との比）



窒素増肥は、分施を1回増やし、

基肥 6 ＋ 分施① 5 ＋ 分施② 5 ＋ 分施③ 5 （kgN/10a）となります。

普　及 Dissemination

窒素肥沃度水準Ⅰのうち CECが低い土壌において、規格内収量が4,000kg/10aを超えるが、ねぎの1本重が不十分な条件で活用する。

連絡先 Contact

農業研究本部　企画調整部
北海道原子力環境センター駐在
０１３５－６７－７６２０